

會學濟經學大國帝都京

叢論濟經

號二·一第 卷八十五第

高田博士還曆記念論文集

行發月二年九十和昭

支那高利貸資本

鈴木 綏一郎

一 農民の困窮度

崑崙の東・黃河の西。古來支那は土地の大を誇り地物の博きを矜るも、彪大なる人口を擁する結果、人口密度極めて高く、土地は相對的に寡少であり、特に農耕可能の土地は極めて小である。農業支那全體を通じて作付面積の中心數は二・三七エーカー作付總延面積の中心數は三・五八エーカー¹⁾に過ぎず、諸外國のそれに比べるまでもなく、農耕地の不足は一目瞭然としてゐる。而もこの土地が分散的に存在し、傳統的舊式器具が使用されてゐる状態であつて、これに家族勞働を主とする集約方法を加へるも、農家一戸當りの收入が極めて零細なることを如何ともし難い。之に對して地代、公租は相當に高く、特に軍閥・地方政權の重税・軍事徵發等時によつて極めて苛酷であり、そのうち下級農民に轉嫁される率が多く、結局輕からぬ農民負擔となつてゐる。根本的には土地寡少に基く農業收入の不足は、從來は家内手工業により僅かに補填され、やうやく雨露をしのぐことをえた。老幼・婦女子の勞働による家内手工業は農家計補充の重要な手段となり、零細農耕と家内手工業の結合は支那農村の基本的構造となつて、この基礎の上に支那社會全般の再生産過程が展開されて行つたのである。

併し、かくの如き家内手工業と零細農耕の結合による積極的努力も土地の相對的寡少性のもつ致命的缺陷を左

1) バック著、鹽谷・仙波・安藤譯、支那の農業、323頁。なほ、土地委員會「全國土地調査報告」等參照。

右しえず、一般農民の貧困度はなほ強度のものであつた。

支那農民階級の分類としては一般に、富農・中農・貧農といふ區別が採用されてゐる。即ち、中農とは通常の年に收支相償ふ農家を指し、貧農とは通常の年に於てすら收支相償ひえざる農家を示し、之に對して自家の生活費と農場經營費とを控除したる後なほ若干の剩餘收入をもつものを富農と稱してゐる。貧農は常に最低生活すら維持しえない階層であるが、中農にても何らかの事情發生するや直ちに貧農と同じ状態に陥る。而もかゝる中農・貧農階級が常に農民中の過半数を占め、富農の如きは極めて少數あるに過ぎず、農民の貧困性は極めて廣汎な一般的問題である。陳翰笙は最近の著書に於て、「民衆生活の水準が一般に低いといふことは衆知の事情であつて、この事實を指摘することは、支那に關しては最早やさほど必要なことではなく重要なのはその方向を分析し、確めること」にありとしてゐる位である。

右の如き農民窮乏の一般的事情は資本主義經濟の滲透と共に更に激成され、愈々深刻度を加へるに至つてゐる。すなはち、列強資本主義が前清末期にその自負的鎖國主義を打破つて侵入せし以來、その強力な商品生産の武器は漸次支那奥地にまで滲透し、舊經濟機構に對して破壊的影響力を及ぼすに至つた。生産効率高き安價な資本主義商品は農民の家内手工業品の有力な競争者となつて之を徹底的に壓倒し、遂にその生産の繼續を不可能ならしめ、以て農業と家内手工業との結合を打壞し、この事情と併行して他方に於て、田賦をはじめ殆んど一切の課税が金納化されることによつて、農業商品化は愈々助長され、かくして農家自給性の破壊と共に不可避的に工業用品の生産に向はしめることとなつた。このことは必然的に農家經濟と商業との聯關を高め、その勢力關係の重壓によつて不等價交換による商人階級のおさめる中間收取を増大せしめ、農民の收支關係は益々惡化の傾向を

2) Chen Han-Seng, *Industrial Capital and Chinese Peasants*, p. iv. 但し、陳翰笙著、井田譯、南支那農業問題研究、12頁。及び吳文暉等に於ては中位の生活をなすうる富力があり、しかも他人を雇ふせず又他人に雇はるる農と看做してゐる。

進るに至つた。従来、資本主義の影響が都市周辺にのみ及び未だ農村内部にまで滲透するに至らなかつた當時に於ては一般に貧弱な生産力の上に立ちながら、なほ自給度高くまた宗族制度を中心とする救済方法も一應そなはり、未だそこに牧歌的なゆとりを残してゐたが、今や、農耕と家内手工業の結合を中軸とせる經濟機構そのものの根柢が破壊せられ、不利な價格競争の上に曝されることによつて、經濟的弱者たる農民の困窮事情は決定的となるに至つた。陳翰笙はアメリカ種葉煙草生産地帯を研究對象として取上げ、これに徹底的な分析・検討を加へた後に、「半植民地的・半封建的支那に於ける工業化及びその結果たる工業的作物の發達は、殆んど常に、一般の生活水準を、わけても中農と貧農のそれを低下せしめる傾向をもつこと」を斷定的に論證して、この事情を明瞭にしてゐる。

中農・貧農が全農家中に於て幾干を占めるかはもとより確定出來ないが、壓制的多數を占めてゐることだけは明白である。これらの者は漸く最低生活を維持しうるか、もしくはその維持すら不可能の状態にあるが、天災・戰禍・冠婚葬祭などの特殊事情が發生するや、收支償ひ得ざる階層は更に擴大されるに至る。而もこれらの偶發事は支那にあつては頻發的性質をもち、それゆゑに支那農民の大部分は常に他よりの援助に俟たねばならぬ事情にある。換言すれば、その貧弱な單純再生産すら常に他の支援をまちて始めて可能なる如き事情にある。支那農民のかくの如き貧困度から、吾々は直ちに農民負債の大きさと範圍とをば推察しうるであらう。

天災・人禍(戰爭・強奪等)が農村經濟にもつ影響はその頻發性と廣汎性により決定的なものであるが、一面に於ては高利貸資本または商人資本により耕作期における農民の收穫物が過去の債務の償還部分として取上げられ、備荒貯蓄の餘裕が與へられない結果、災害の影響を廣汎ならしめ、もしくは克服しうる程度のものをも強く破壊的なものとして受取らしめねばならぬやうな情勢に導いてゐる。この意味で、高利貸資本は天災を増加せしむるものとも云ひうる。

3) Chen Han-Seng, *ibid.*, p. iii.

1) cf. Chen Han-Seng, *ibid.*, p. iv.

2) 吳文暉、現代中國土地問題之探求(新社會科學季刊第一刊第四期)にては中農22%貧農68%と推定してゐる。

本来、支那の人口過剰は決定的なものである。併し、クレツシイの如きは「單に生存してゆくのでよいといふならば、恐らく過剰とは云ひえない」と考へてゐる。だがこれは一切の人爲的奇斂誅求・収取關係を無視した場合に、従つて、具體的經濟關係を全然度外視せる場合に抽象的にのみ云ひうることであり、一定の歴史的段階に立ち、従つて外國との關係なども既定的なるものとして繰込まれ、且つ支配階級その他の維持を農村經濟の生産力で以て行はねばならぬといふ現實の地盤に立ち戻る限りは、かくの如き説が暫定的にもなされるものかどうか大に疑はしい。

二 農民負債の實情

支那農民は一方に於て分散的零細農耕の上に立ち、古き生産機構に緊縛され、高率の地代・雑捐を課されて少からず苦惱すると共に、他方に於ては從來の困窮しながらもなほ牧歌的色調を残してゐた自給的生活が近代資本及びその持つ強力な商品生産の力によつて破壊され、この結果貧困農民のうくる重壓は著しく増大された。特に貨幣流通機構を媒介せしめることによつてこの事情は一層助長された。農家負債はその必然的結果である。舊經濟機構の崩壊と新經濟關係の發生とは二重にこの農家負債を擴大深刻ならしめてゐる。いま、この二重の重壓下にその深刻度を増しつゝある農家負債の實情を、一般に利用されてゐる統計を藉りることによつて、その概略を理解し、本稿の必要とする限りにてその大要を大づかみに把握することゝしたい。

一、借受農民について

イ、負債農家の割合は、從來の調査にては次の如くである。

バック教授	三八・三%	(一四二縣)	民國一八一—二二	土地委員會	四三・八七%	(一六三縣)	民國二四
中央農業實驗所	五六%	(八五〇縣)	民國二二				

註 二十二省總縣數一七九九縣中の約半数よりの報告を基礎としてゐる中央農業實驗所の報告が最高割合を示してゐる。併し一

支那高利貸資本

1) クレツシイ著三好譯、滿洲支那の土地と人、159頁。
2) 天野元之助、支那農業經濟論、中、第七章。久重福三郎、支那農村の高利貸債(東亞研究第六十六・七號)。

般に糧食貸借を除外して取扱つて居り、而も糧食貸借と金錢貸借とは實際に於ては同一の性質をもつものである。その外負債調査にみられる各種の困難より推して、これらの統計數値より實際には大となることが多いであらう。

次に滿鐵・冀東農村實態調査報告書の資料に基けば部分的な統計であるが次の如き結果を得られる。

	借債農家の全農家數に對する比率	未濟額	一債戸當り
平谷縣大北關	$\frac{38}{98}$ 卽三六・七%	三八〇八元	一〇五元
豐潤縣米廠部落	$\frac{42}{114}$ 卽三六・八%	八九三三元	二二二元
昌黎縣梁各庄	$\frac{62}{101}$ 卽六一・三%	元 一三四八六元 利 八二四〇元	三五〇元
總計	$\frac{142}{313}$ 卽四五・三%		

之に對するものとして、中央農業實驗所調査の河北省についての統計數値を參考として拾へば次の如くなつてゐる。

河北省(一〇九報告縣) 借債家數 五一% 借糧家數 三三%

これらによつて、ほぼ負債農家數を判定出来るであらう。

□、負債農家階級別

地 主	河北清苑 五〇〇農戸	廣西蒼梧 四九六農戸	廣西思恩 四一九農戸	廣東番禺 一二〇九農戸
富 農	四七%	—%	—%	七・五%
中 農	三八	二〇・八	一七・五	四八・六
貧 農	五八	四九・〇	一九・〇	五二・八
地 主	六三	六一・三	四三・四	五八・九

備	五五	一一・二・九
其他村戶	一	一五・一
合 計	五八	三六・〇
	五八・一	四三・九

河北省清苑の調査にては地主・富農階級に相當の負債が見られるが、「此の地主・富農の負債たるや家庭窮迫に依るのではなく、中・小農の借債と同日に論ずべきものではない」。一般に中農貧農に負債者割合の多きこと明瞭である。備農以下の比率が却つて低下してゐるのは、抵當物件もなく借債の力もなきことを示してゐる。

二、貸付人について

富農・商人・地主等がその大部分を占め、個別的取引である事情が明瞭に看取される。

借款來源表(%) 實業部中央農業實驗所

現金貸借	一・三	九〇	四五・一	二・三	八・九	一〇・一	利子
糧食貸借	二〇・九	一三・六	四六・六	二・三	一七・六	(月利七)	
	合作社	親戚知友	地主	富農	商家	錢局	其他

但し、同じく中央農業實驗所の報告でも、農情報告第二卷第十一期の統計では、商家二五%地主二四・二%富農一八・四%となつてゐる。兩者の數値の相異については何等理由が示されてゐない¹⁾。

三、負債原因について

負債用途別表

日常生活	十六省	浙江平湖	廣西五縣	河北定縣	河北深澤縣	山東李村區	上海
冠婚葬祭疾病	二六縣	三〇六貸戶	三五貸戶	五ヶ村	一三七貸戶	一四二貸戶	九六貸戶
	三	一	三(一)	三(四)	(一)	(三)	六
	七	(六)	(一〇)	(七)	(七)	(一〇)	六

支那高利貸資本

1) 天野元之助、前掲書、217頁參照。
 2) 久富福三郎、前掲論文、44頁參照。

借償償還及納税・納租	一三	(五)	—	四五(五)	(二)	—
農業資金	四	(五)	一〇(四)	一五(三)	(九)	(五)
副業資金	—	—	—	—	(七)	—
商業資金	—	—	三〇(二)	七(八)	—	(七)
土地・家屋	二	(三)	三(四)	—	(四)	(六)
天災・人禍	六	—	—	—	—	—
教育	—	—	—	—	—	(三)

註 括弧内数字は借款總額に對する百分比を示し、括弧なき数字は借款總件數に對する百分比を示す。

日常生活・冠婚葬祭疾病に關するものが最も多く、舊借償還及納税納租のためのものを之に加ふれば、負債の壓倒的多數を占めてゐる。生産用途のものも若干存在するが、これらのもつ意味については後述する。

三 高利貸資本の意義

一般の資本貸付に於ては、資本の用役の利用従つてそのもつ生産力のゆゑに貸借が行はれる。それゆゑに、生産力と資本利用の對價とが比較考量されて取引が行はれる。然るに高利貸資本の貸借は之と異り、純然たる消費目的のために需要されるか、もしくは最低生活資料確保のための生産用途に充てるために需要せられる。一括していへば、家計補充的内容をもつ。資本利用の對價たる利子とそのもつ直接生産力との比較考量が行はれぬ點にその特質がみられる。すなはち、當面にさし迫つた入り用を充すことに急にして、將來の負擔の大きさを考慮する餘裕なきほど切迫せる事情を根柢としてゐる。消費用途に充て收入の不足を補ふための借受の場合には本來生産と關係をもたない貸借であることは自明のことであるが、最低生活維持のための最低生産を行ふに必要な資金も

またその直接もつであらう生産力の大きさに限定されることなく是非とも獲得されねばならない。すなはち、高利貸資本にあつては、本來その特定資本のもつ生産力と無關係にか、又はかゝる生産力の大きさを無視すべき關係に於て借受けられる。従つて高利貸資本の貸付に於ては、一般資本貸付が現實には需要と供給との關係に於て利率が決定され乍ら、根本的にはその限界生産力の點に利率の限度が存在する事情にあるのと異つて、何等貸付の對價たる利率を客觀的に限定する限度をもたない。それ故に、需要者のもつ緊迫度如何によつて利率は如何なる高さにまでも高まりうる。高利貸資本にあつては、それが消費目的に使用されると、生産と關聯して用ひられるとに拘はらず、前述の如く資本のもつ生産力と關係なきか、よしあるもかゝる關係を現實の逼迫感から無視すべき事情にあり、従つて、資本貸付の如く貸借自體のうちに元金及び利率の客觀的根據をもたない。換言すれば、元本及び利率の可能性が貸付取引それ自身のうちに存在してゐない。この結果、回収不可能の危険性を多分に藏し、従つて供給は抑制され、利率は高からざるをえない。いはゞ高利貸資本はそれが本來有すべき生産力以上の、ヨリ詳しく言へば、それがそれぞれの經濟地盤に於て本來要求しうべき相應額以上の報酬を追求するものである。併し高利貸資本は單に利率が比較的に高いといふことによつて規定されるのでは不充分であつてかくの如き結果を導くに至る根本的事情たる、その資本の貸手と借手との經濟上の地位特に借受人の經濟的事情が基本的なものとして注意されねばならない。

本來、高利貸資本は、殆んど如何なる時・如何なる場所にも發生しうるものにして、たゞ、直接生産者の生産物の一部が商品化され、貨幣の支拂手段としての機能が確立さへしてをればよい。商業が早くより發達し、貨幣機能が古くより發展してゐた支那に於て、古來高利貸資本の活躍が盛にみられたのは、蓋し當然のことである。

高利貸資本の性質と關聯して、農家負債をその用途上からみて消費目的と生産目的とに峻別すべしとの主張がある。トーネイ¹⁾の如きこれである。なほ表面的には右の如く強調してゐないが、農家負債をみる場合に同じくかかる見地を暗々裡にとつてゐる論者が相當に多い。併し最低生活を維持することすら困難なる農民にとつては、生産改良のために積極的に資本を借入れることは例外的場合に限るのであつて、一般に生産に關係して資本を借入るゝとも、私見によれば、消費目的のそれと實際の本質に於て異なるところはない。蓋し、今日の食糧にこと欠けば、生存は直接脅かされ、その獲得のためには凡ゆる犠牲を拂ふであらうと同じく、最低生活維持のための農耕を中斷することは他に収入なき中小農民にとつては明日の生存を危殆に瀕せしむることであり、これが繼續は如何なる犠牲を拂ふも確保せねばならぬところであらう。その間に直接・間接の差違は存するも、生活維持のために農耕を続ける必要は、今日の食糧を確保せねばならぬ緊急事情と全く同一であり、不可避のことである。従つてこの意味の生産は、借入れ資本の利子の高さとは無關係に、必至的に行はねばならない。貸手と借手とが概ね對等の地位に立ちて利子率との比較考量の上資本需要を決定する一般資本貸付にみる如き選擇的自由はそこには見られない。

しかも農耕資金と生活資金とが(根本的にはその貧困のゆゑに)分離せられざる農民にあつては、生産續行の必要資金に窮したる場合、これを直接に「生産目的」として他より借入れざれば、結局自己の日々の生活資料またはそのための資金を之に廻すこととなり、従つてその分だけ不足せる生活費を他より借入るゝこととなり。農耕資金と生活資金とは農民の會計に於ては全然同一のものであり、或時にはそれが具體的に農耕資本となり、或時にはそれが生活資金に轉ずる。この兩者を合した必要資金が充分に存在する場合に、即ち少くとも最低生活維持の

1) R. H. Tawney, *Land and Labour in China*, p. 62. トーネイは農村貸借を積極的に生産を増加せしめるための借債と家庭用資金とに區別してゐる。

ための單純再生産を容易に行ひうる場合にはじめて、積極的に生産増加もしくは生産改良のための借入が問題となり得るであらう。従つてその際高利貸資本と對立させるべき貸借即ち現在検討してゐる農家貸借と別個のものが現はれうるが、これはいま問題としてゐる貧困支那農民にとつては差當り問題とならない。

右の如き事情にあるを以て、單に生産目的として借入れられたるがゆゑに、消費信用とは全然異なるものとして取扱ふことは必ずしも實情に即しない。特に困窮せる支那農民の場合に於ては、消費信用と生産信用として之を對比すべきものではなく、むしろ兩者は一括して、自由なる對等取引である一般資本貸付と對比されるべき性質のものであり、それによつて兩者がともに高利貸資本取引である事情を確認し、農民の經濟狀態の基本的問題を認識することが重要である。

四 支那農村貸借の利率

さきに一言せる如く、支那に於ける農村貸借は凡べて高利貸付の性質をもち、従つて高利貸資本の主要活動形式として之を取扱つてきたわけである。利率が如何に決定されるかについては重ねて多言するを要しないが、高利貸資本の特質として利率決定の客觀的限度なるものが存在せざるため、貸手側の現在資本と將來資本とに附する價值評價の比率が最低となり、借手側のそれが最高となり、利率は個別的取引としてこの間に決定されることとならう。併しその間の如何なる點に決定さるかには斷定出來ない。土地收益率すなはち土地價格と地代の比率と高利貸借の利率とは恐らく何等かの關係があり、或る意味で前者が規定的なものとして作用するであらうが、この問題に立ち入つて考へを進めることは他日に俟ちたい。借主の階級層の差異・擔保能力の差異は回收安全度

に影響を與へるため、期限の長短と共に、利率折衝に際して之が考慮さるゝことは疑ひなく、また一般的環境特に農業年度に於ける時期の差によつても、利率は上下するであらう。中央農業實驗所の調査の示すところによれば、報告縣數八七一、報告件數二、二五九に於て、次の如き比率を示してゐる。

一割乃至二割	九・四%	二割乃至三割	三六・二%	三割乃至四割	三〇・三%
四割乃至五割	一一・二%	五割以上	一一・九%		

本表は農情報告第十一年第十一期によるが、同年第四期の表によれば、現金貸借の利子は平均年利三四%でありこれは一般に引用され利用されてゐる利率である。期限は六ヶ月乃至一ヶ年のものが過半數を占めてゐる。

併し、支那高利貸付一般を論ずる場合に、これらの數値にどれだけ依頼しうるか、詳しくは今後のヨリ詳細な調査及び資料批判によらねばならぬが、法定利率の制限を免れるため利息を明記せず償還時における元利を含めた金額と期日を記す慣行や、天引等の形式による表面利率を低下しその實高利を徴收する方法が一般的に行はれてゐるのを、如何なる程度までこれ等の貸付利率に換算して拾ひあげられてゐるか不明である。また商品買取等の條件付のものには、市價以下に買取られることとなり、實質的には價格差も貨幣貸付の直接報酬の一部であり、高利貸借の農民壓迫度は利率以上のものとなる筈である。農民のかゝる借受の對價はかくして極めて高度のものとなり、實はこれらのものを合算したものが、眞の利子たるべきものであらう。なほ親戚朋友に對しては無利子の貸付が行はれ、中には實質的に讓渡の意圖のもとに行はれるものも若干ある。これら無利子のものは平均利率算定に加はつてゐないと思ふが、果して然るか若干疑問の餘地がある。かくして實質的利率の調査には幾多の難點を含み、従つて統計數値への信頼度は割引されねばならない。一般的には支那高利貸資本の追求せる

1) 天野元之助、前掲書、中、246頁以下參照。
 2) 民法第二百五條、「約定利率、超過周年百分之二十者、債人對於超過部分之利息、無請求權」

利子は統計數値にあらはされたるよりも恐らくヨリ苛酷なるものと考へるべきであらう。そしてこの恐るべき高利の存在は貸付形式の具體的研究によつて明白となるが、これは別の機會にゆづらねばならない。生産力低き社會經濟機構の上に高率の利子！これこそは支那農村、支那社會の根本的問題の縮圖といへよう。

五 高利貸資本の特質

高利貸資本はまづ第一にその貸付取引自身の中に元本及び利子の支拂の客觀的根據を存しない。第二に利子が高率であり、従つて自己膨脹率が大である。第三に債務者の經濟的地位が劣弱である。

これらの三者は相互に相關聯する性質であるが、三者相俟つて、元本及び利子の支拂を困難ならしめる。一度債務を負ふや、これらの事情は相重つて債務者の重荷となり、その所有物（土地・器具等）を喪失せしめ、而もそれによつて債務者の經濟的地位が益々惡化することゝなつて新しき債務の成立を必要ならしめ、條件は地位の惡化と共に益々苛酷となり、凡ゆるものを剝奪された後、完全に隸屬して奴隸的境遇に陥るか、負擔の重壓の爲に破滅の外なきに至る。

かくの如く、一度高利貸資本の渦中にまきこまれるや凡ゆるものを奪ひつくされ、遂には破滅にまで導かれずにはおかない破壊的性質を、そのもつ自己膨脹的性質と共に高利貸資本の一特質として把握することが出来るであらう。これらの特質は、高利貸資本が本來要求しうべき相應額以上の利子を奪ひとるといふ基本的性質より派生せるものであることはいふまでもない。

次に高利貸資本の所有者は自ら生産の主體として之を利用したり、もしくは他に之を行はしむるのでなくして

奢侈的階級への貸付を姑く別とすれば、零細生産者の困窮せる事情を原因として、その生産事情に基いて貸付先を見出す。従つてかゝる困窮せる情勢そのもの、維持が自己の高利貸資本活動の繼續・繁榮のために希求せられる。即ち、生産に對して働きかけることもなく、單に小生産機構の周邊に附着しつゝ利潤を吸収する。このゆゑに、農村の封建的生產様式の維持者として同じくその農村構成の上に自己生存の基盤をもつ官僚階級の欲求と共通の立場に立つ。こゝに官僚階級と高利貸資本家階級との一體化の功利的根拠が存在する。

従つて支那に於ては、商品取扱資本の取締には無關心もしくは往々嚴格であつたが、高利貸資本に對してはむしろ法律的保護が加へられ、債務契約の履行を強制する面倒は官僚國家によつてよろこんでとられた。たゞその高利貸資本の利益が官僚階級のそれと衝突するに至る場合には豹變的に斷乎たる處置がとられた。¹⁾こゝに官僚資本と高利貸資本の結合・抱合關係が明瞭に看取される。

六 支那農村高利貸借の發展

支那農民の過半数は、常にもしくは偶發事の勃發毎に、他の援助に俟たねばならぬ事情は、前に見たるところで明瞭であるが、かゝる農家負債は年々如何にして發展し、如何なる結果を導いてゐるか、將又、支那社會經濟の上に如何なる影響を與へ、その進展の上に如何なるものとして機能したか等につき考察することとする。

一、負債者側 個別的事情として觀察するに、高利貸借は本來條件苛酷であり、借受人はかゝる金融によつて急場の難境を切抜け一時を糊塗しうるが、新しき負擔のために實質的には困窮度は愈々深化し、更に新しき借入の必要を生じ、高利貸借はかくして新しき高利貸借を必然的ならしめ、この循環過程は層一層條件を悪化しつ

1) ウィットフオーゲル、平野監譯、解體過程にある支那の經濟と社會、下巻、370頁。

つ擴大してゆく。この間高利貸借の重壓の下に、最初抵當に入れたる土地及び器具などを漸次手離す外なきに至らしめ、再生産事情は根本的に破壊せられ、やがては新しき借入も不可能となつて彌縫するによしなきに至り、遂に餓死線を彷徨し、或は苦力（華僑もその一つ）となり、或は應募兵となつて農村より脱落するか、もしくは死亡するかの途よりなくなり、いづれも高利貸借の範圍外に逸脱する。此の事情を、高利貸借の惡循環の過程として理解しうるであらう。

次に負債者層全般の問題として觀察すれば、右の如き反面に於て、均分制を建前とする相續制度及び人口増加により富裕なる一農家は多數の零細農民またはそれに準ずるものに分裂し、この外、兵亂・軍稅・強奪による難民の發生によつて、高利貸資本の需要者たる中農・貧農層及びその他のものが常に新しく創出される。

かくの如くして新生と脱落とは互に相殺し合つて、高利貸資本の借手たる層を、内部的に新陳代謝を行ひつゝ、常に一定量以上のものを社會の一方に存在せしめてゐるのである。すなはち、高利貸付の需要者層は常住的な存在を保つてゐる。

二、貸付者側　高利貸資本の供給者の事情を見るに、その高利率と、封建的もしくは中世的な苛酷な條件によつて、着々と貨幣財産を蓄積し、農民負債の自己膨脹的増大に對應して激増せしめてゆくが、一部には支那歴史の全體を通じて絶間なく生起する戰禍によつて一舉に産を失ふことも多く、殊に均分的相續制度は蓄積された資本を分散せしめる効果をもつ。中には貸付者側から借受者側に轉落するものもあるであらう。かくして一部の官僚が直接間接の高利貸付を通じて巨大資本を一切の障蔽から防衛されつゝ蓄積してゆくのを除けば、全般的には高利貸付者側に於ても必ずしも富が一方的に増大するわけではなく、蓄積と分散の作用が交互にはたらく。

全體としてほゞ同様な規模におけるほゞ同様な地位が年々見られることになる。利率及びその他の條件が高利貸付者に極度に有利であるに拘らず、その反面に於ては、回収不能のものも相當にあり、或は貨幣價值變動による損失を一部負擔しなければならぬこともあり、且つ餘剰資本の幾割かは貸付相手もなく、遊休的狀態にあることが比較的が多い故、全蓄積高は必ずしも利率の表現してゐる如き強度をもちえぬことも考慮されねばならない。ともあれ、高利貸資本の貸付者階級にあつても、その内部に於ては一部の新陳代謝が行はれながら、常に少からぬ數を占めつゝ、かゝる層としてかゝる存在を、常住的に續けてゐるのである。

かくして、高利貸借の借手と貸手との兩者に於て、一方には脱落と新生とが見られ、他方には蓄積と分散とが見られて、各々新陳代謝が行はれつゝ、對立して常住的存在を續けてゐる。それより必然的に起る兩者の間の取引は絶えまなく繰返されて、上に見たる如き高利貸借は、無數の悲話と哀史とを織込みつゝ、一般化され永續化されて止むところを知らぬのである。

七 餘 言

吾々は以上に於て、高利貸資本の利子決定事情と關聯して高利貸資本の性格を考察し、かくして農民の困窮を基礎とせる支那農村貸借は凡べて高利貸資本の貸借である所以を理解し、支那における高利貸借の一般的實情を統計を藉りて概観し、その貸借の發展が貸付者層と借受者層に如何なる影響を與へつゝ行はれたかを検討した。

支那高利貸資本は右の如くして常にその繁榮を誦ひ、官僚支配的社會構成における農民の縮小的再生産構造を培養器として小止みなき發展を續けるが、この高利貸付過程の參加者として統計面にあらはれる富農地主商人層

といふ形式的分類の外に、その装ひの下にある官僚階級の存在及び役割が高利貸資本による價值剝奪過程の一の終點として検討されねばならない。いま一つの終點は高利貸資本を媒介として商業過程を通じて行はれる價値の外國への喪失である。

この二つの事情を併せ考へることによつて、支那高利貸資本の發展はその全貌をつかみうることとなる。未だ資料的研究を充分に行ひえないので決定的なことは凡べて差控へる外ないが、たゞ研究の現過程における鳥瞰的構圖をのべてこの小稿を補足しておく。

在官の官僚及び退官の官僚即ち所謂紳士は支那社會における支配階級であり、大土地所有者であると共に、質屋・錢莊・商店への融資者であり、直接的の土地吸收と間接的の金利收取との兩過程を通じて、高利貸資本としての彼等の財産を累積せしめた。かくして官僚階級は政治的關係による苛斂誅求と經濟的收取とを兼ね行ふことにより、農民生産物の多量の部分を獲得し、之を彼等の生活費の外、奢侈品購入もしくは派閥的競争のための費用に充て、一部はこれらの中に介在する寄生的中間商人に中飽される。従つて高利貸付を通じての官僚階級へ剝奪されたる價値は、農民をその中含む全體の利益とは何等の關係なく非生産的に消費された。

高利貸資本は農村の窮乏と支配者層の安定をもたらし、そのゆゑに生産様式の改善・農村の救済とは何らの關係をもちえない。むしろそれとは反對のものとして働き、一部農民の脱落過程も尠大な支那社會のもつ小農民創出機能に補はれて、永き年月を通じて何らの發展なき單純再生産を可能ならしめた。蓄積された資本と無産化された農民とを新しき形式に於て結びつける如き條件は何ら醸成されず、たゞその破壊的な性質は大海のもつ淨化作用の如き支那經濟の輪廓の大いさゆゑに、悲惨な社會的重大事でありながらも完全に解消されて、表面的に

は、たゞ同じ規模・同じ格構の經濟姿態を續けしめた。高利貸資本はかくして官僚支配的封建的社會の一支柱たる機能を果してきたのである。停滞性といふ支那社會のもつ特性を之に賦與してきた一擔當者と考へられうる。

つぎに、高利貸資本は、農民をその貧困化を通じて商人の前に弱體化せしめ、生産物の不等價交換による廉價賣却を除儀なくせしめる。この廉價原料品は商人間の競争によつて外國資本に安く買取られ、高利貸資本の介在によつて外國への價値流出が行はれる。

なほ飢餓的農民階級は農村を追はれて都市に集中し、民族産業の勞働者包容力には限度があるため（これは高利貸資本としての民族資本の性質が産業資本化を妨げるために起る）強力な外國資本の下に吸収され、こゝに低賃銀勞働力を外國資本に供給することゝなる。超過利潤を求める外國資本主義の強化はこの意味に於て高利貸資本の農村における跋扈を基礎として成立する。高利貸資本はいはゞこゝでも半植民地體制の支柱たる役割を果す。

かくして、高利貸資本は内に於ては破壊的行動を繰返しつゝ而も落後的支那社會經濟機構をそのまま維持し、外に對しては無意識的に外國資本の強化に資して居り、從來の半封建的・半植民地的機構の存續の一支柱たる役割を果してゐるものと見られる。